

LIFE(科学的介護情報システム)を活用して見えてきたこと

～スムーズな LIFE 出にむけた業務改善～

施設名:介護老人保健施設 いしかわ願寿ぬ森

発表者:大畑美樹 比嘉紀江

山内隆生 上地香織

【はじめに】

当施設は、平成8年に開設し今年で26年目を迎える施設である。

介護保険制度が2000年に施行されてから3年毎に改正を行い、今回で21年目、7回目の改正においてLIFEの活用を算定要件に含む加算が導入された。

当施設でも令和3年11月分よりLIFEを活用した加算取得を行う中で、管理課がLIFEについてどう組立てきたか、それから見える問題点・改善点・課題点などを報告する。

【LIFE とは】

介護現場において、利用者のためにいろいろなケアの取組が進められているが、どのようなケアをやればうまくいくか、自施設・事業所で行っているケアは他の施設・事業所のケアに比べてレベルはどうかという点は、ケアの内容と利用者の状態のデータを一定の基準ととして分析・評価をしないと正確なところはわからない面がある。このような取組を「データを活用した科学的介護」というが、LIFEはこの取組を全国的に同一の仕組みのもとで行える仕組みである。

【LIFE を導入するメリット】

利用者の視点では受ける介護の質が向上し、自立支援や重度化防止に役立つ、介護の選択肢が増える。

事業者の視点では分析結果をもとにフィードバックを受ける事で提供するケアの質が向上する、等があげられる。<表 1-1・1-2 参照>

【当施設での LIFE 導入による動向】

当施設は、これまで、FileMaker(以下FM)をケア記録・R4システム・栄養マネジメントを積極的に使用してきたが、「LIFE」を活用した加算を取得するため、「ほのぼのNEXT」(以下ケアシステム)へ移行していった。

当施設の加算項目は別紙参照。<表 5-1・5-2 参照>

【施設独自のチェック表】

各加算の提出頻度には、半年や3カ月等の期間があるが、他施設では、毎月提出か3カ月毎の提出か施設毎で決めているようである。

当施設では、入所・通所とも毎月のカンファレンス毎に提出できるよう、FMで管理されている。

特に、通所リハビリテーションにおいては、LIFEの対象となる利用者のリストについて、利用中と終了は抽出されていたが、休止の人が表示されていなかった。これを利用中、休止、終了を明示できるようにした。また、職員と相談員との間で利用終了か休止か判断が異なることが多かったが、システムの活用が判断の支援となり、適切な判断が行えるようになった。結果、LIFEの確認作業の短縮化に繋がった。<表 7・8 参照>

【まとめ】

これまで、各加算様式において担当部署を決め入力を行ってきたが、まだ入力ミスや再確認が必要となる場面が多い。

また、各管理者だけしか入力箇所を知らないなど、業務の偏りが見える。

更に、厚生労働省からフィードバックデータはまだ参考とする資料はなくLIFEのデータを伝送するだけの現状である。

LIFEの活用を算定要件とした加算を取り入れ、約1年がたとうとしているが課題はまだ残されている。

LIFEの活用にあたり、取得できる加算があるが、せっかく現場で行っているケア等でも、ケアシステムの中に必要な情報が入っていなければ加算の請求も出来ない。改めて、各部署で再確認を行い、より効率的なLIFEの入力、提出に繋がっていきたい。